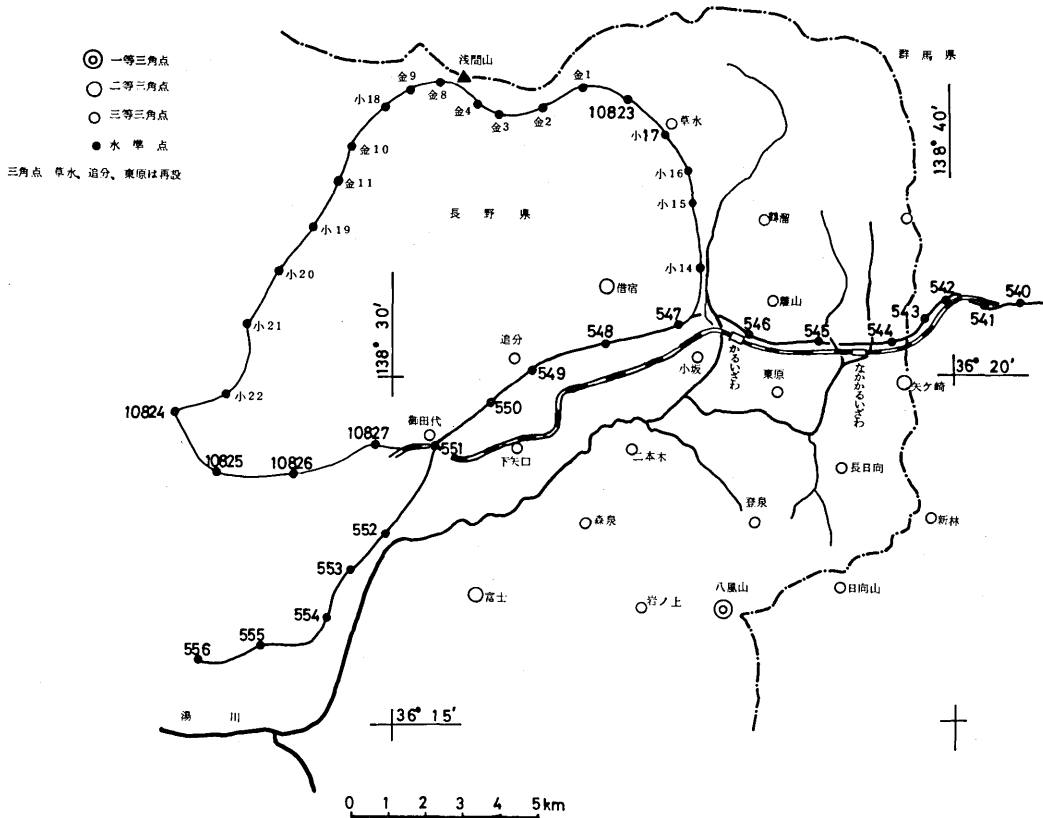


浅間山南部の地殻変動*

国土地理院

浅間山付近の三角測量は、第1回目が1904年に、第2回目は1973年に浅間山南部の地域が改測された。一等水準路線はこの第2回目改測地域を通過しており、過去7回測量が行われている。第1図にはこの三角点と水準点の位置を示した。

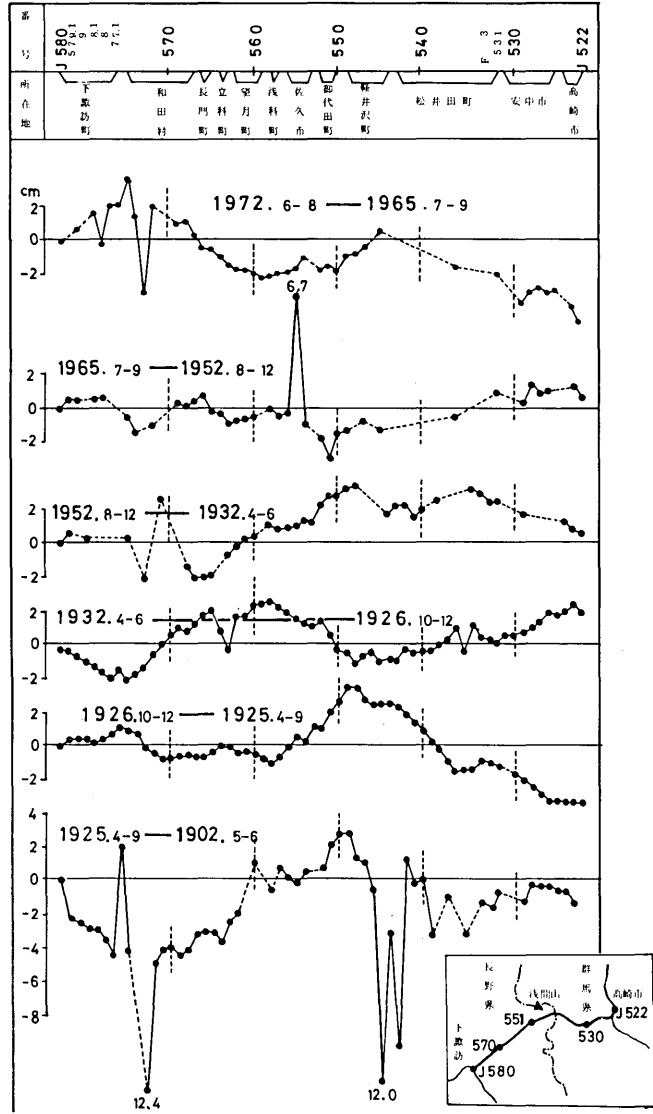
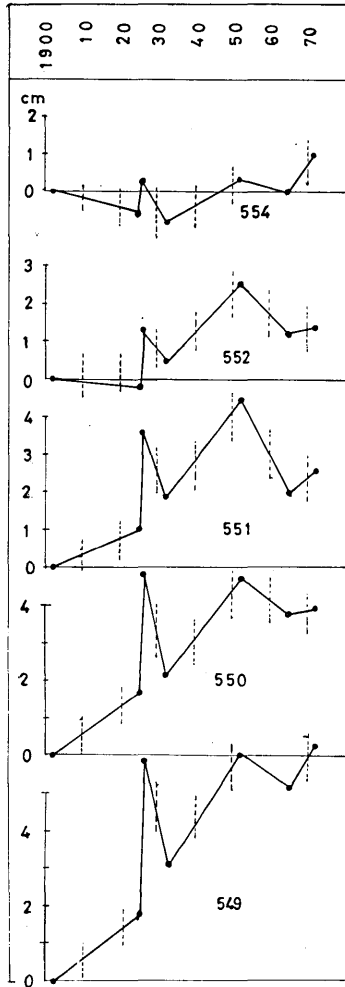


第1図 浅間山南部三角点・水準点位置図

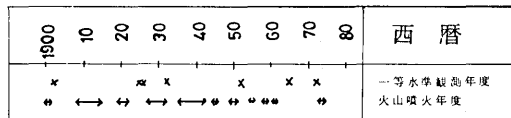
第2図には上記に示した水準点の過去7回の測定から求められた上下変動を示した。1926年～1925年1年間で浅間山に近い水準点549で約4cm隆起している。これは1927年以降に生じた噴火と関係があると思われる。

第3図は、水準点の経年変化を示したものである。また下欄に浅間山の噴火年度と一等水準測量の観測年度が示してある。噴火と地殻の上下変動との関係は、一等水準測量の観測回数が少なすぎるためよくわからないが、1926～1925年間の急激な上昇は、前にも述べた1927年以降の噴火と関係があると思われる。

* Received Jan.10, 1976



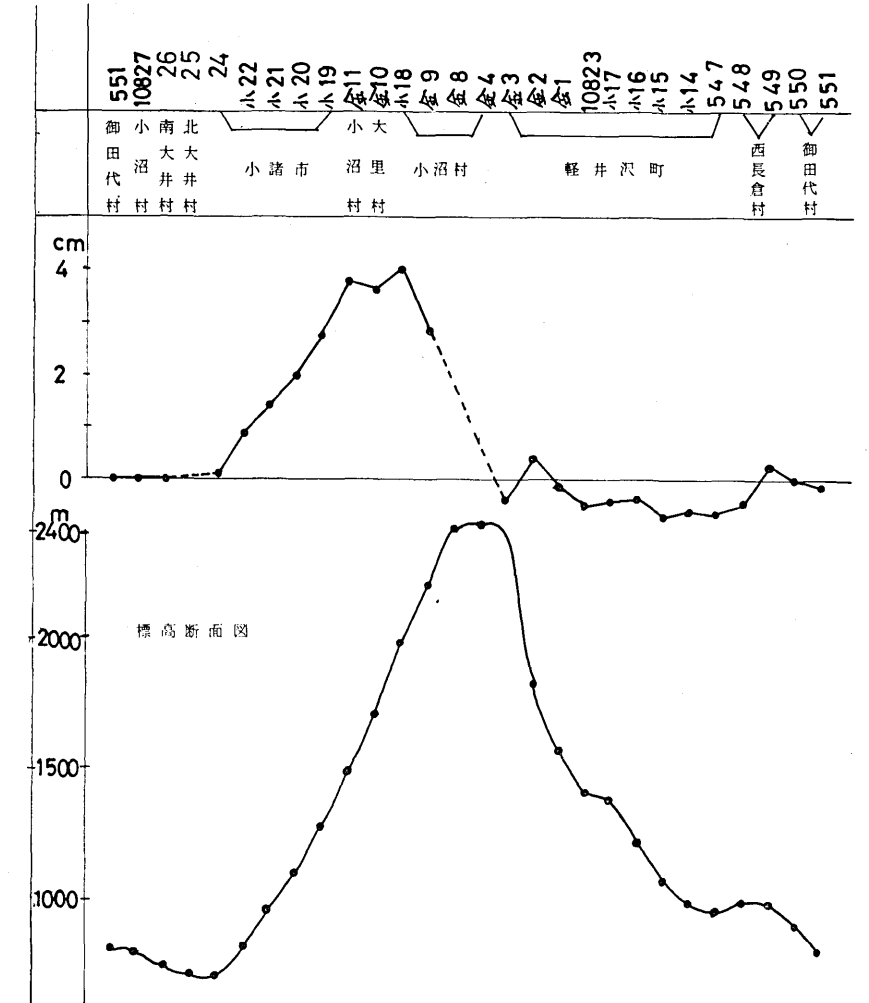
第2図 下諏訪町J580~高崎市J522の上下変動



第3図 浅間山近傍水準点の時間的变化
水準点560を不動とする

付図第4は、地震研究所の委託によって行われた1939～1935年間の浅間山を一周する路線の上下変動である。この当時噴火は1935年から1942年まで続いており、浅間山近傍の水準点の上昇は、この噴火と関係があるものと思われる。

第5図に、浅間山南部の1973年～1904年間の水平歪を示す。特に大きな地殻歪の蓄積があるとは思われない。

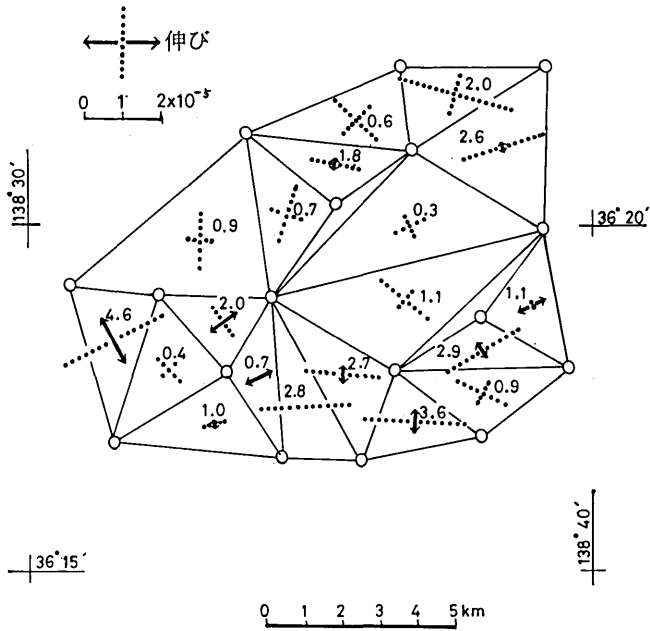


第4図 浅間山周辺上下変動(1939 7~10 - 1935 6, 9)

(1973 — 1904)

▲ 浅間山

縮み 数字は最大せん断ひずみ (単位 10^{-5})



第 5 図 浅間山南部水平歪